

## 17 小麦新奨励品種「きぬあずま」の栽培法

福島県農業試験場種芸部・相馬支場・平成12年度農業試験場試験成績概要

1 部門名 普通畑作物-小麦-施肥法-栽植様式・栽植密度 分類コード02-02-13150000

2 担当者 二瓶直登・半沢伸治・丹治克男

3 要旨

平成13年度から新たに奨励品種に採用される、良質でうどん加工適性が高い「きぬあずま(関東117号)」の良質・安定栽培法について検討した。

(1) 播種時期は標準の10月下旬播で最も収量が安定した。早播をしても出穂期・成熟期は変わらず、寒害により穂数は減少し収量は低下した。晩播では生育量不足となり、1.2kg/a播種としても穂数が減少し減収した。

(2) 標播での播種量は、0.4kg/aでは茎数不足で減収、0.8kg/aと1.2kg/aでは収量・品質は変わらず、0.8kg/aが適量と思われる。

(3) 基肥窒素施肥量は1.5kg/aでは穂数が過剰となり倒伏し、1.0kg/aが適量と思われる。

(4) 成熟期の稈長が85cm以上、穂数700本/m<sup>2</sup>以上で倒伏のおそれがある。

(5) 幼穂形成期追肥(2月中旬～3月上旬)により穂数が増加し、約10%の増収効果があった。

(6) 出穂期追肥は千粒重・蛋白向上効果が認められた。また、このとき粉の色(L\*:明るさ、a\*:赤み、b\*:黄色み)にはほとんど影響がなかった。

以上から幼穂形成期と出穂期の2回の追肥を組み合わせることで、収量・品質とも高い子実が得られた。

4 主な参考文献・資料

(1)平成11年度秋冬作試験成績概要(畑作)